

文化ボランティアが「あなたと・あなたの街」を元気にする！

# ふくおか 文化ボランティアフォーラム 2017

若者と文化ボランティア団体  
の出会いの場を作って  
“高齢化”を克服しよう！



ふくおか県民文化祭

11月4日(土)

エルガーラホール7F(多目的ホール)博多大丸東館



この事業は、宝くじの収益金を活用して実施しています。

— 主催 —

ふくおか県民文化祭福岡県実行委員会、福岡県、福岡県教育委員会、  
福岡県文化団体連合会、NPO法人文化ボランティアとびうめの会

## [プログラム]

10:00~10:05

### 【主催者挨拶】

NPO 法人文化ボランティアとびうめの会 代表理事 田中 正治 氏

10:05~12:00

### 【基調講演】

「文化のバトンをつなぐためには！  
～最新動向からみる文化ボランティアの現状と課題～」

独立行政法人 日本芸術文化振興会

プログラムオフィサー 柴田 英杞 氏

### 【講 演】

「文化ボランティアの変容を考える3つのキーワード  
“参加” “サイトスペシフィック” “中動態”」

さいたまトリエンナーレ2016 サポーターコーディネーター  
(九州大学大学院芸術工学府博士後期課程在学中)

藤原 旅人 氏

昼休み 12:00~13:00

13:00~14:00

### 【事例報告】

○～音楽を愛する想いが街を繋ぐ～ 北九州市民と学生ボランティア

アコルデ事務局長 奥村 和子氏

アコルデ運営委員 有中 妙子氏 中村 裕巳氏 岩崎 篤子氏  
谷口 波子氏

○姪浜商店街の活気を取り戻すために

西南学院大学経済学部4年 河野 敬太氏 桐原 望氏 吉原 匡俊氏  
高山 秀平氏 重松 修介氏

○家庭文庫からひろがるボランティア活動

やかまし村文庫 主宰 上村あつ子氏

休憩 10分

14:10~16:00

### 【とことん討論会】

文化ボランティア コーディネーター 柴田 英杞 氏

人口減少、少子高齢化、格差社会など、現代社会は課題山積です。コミュニティの再生は、人と人がつながり合い、喜びも痛みも分かち合うことから始まります。文化のバトンを誰に渡すのか、フォーラム出会いの場で皆さんと一緒に考えます。

- ① ホール・劇場、美術・博物館
- ② まちづくり、観光ガイド
- ③ 図書読み聞かせ

16:00~16:30

### 【まとめ・講評】

コーディネーターの 柴田英杞氏、講師の 藤原旅人氏からの講評

**柴田 英杞** (しばた えいこ)

文化審議会第13期～15期文化政策部会委員  
(独)日本芸術文化振興会プログラムオフィサー(演劇)  
(公社)全国公立文化施設協会アドバイザー



劇団俳優座演劇制作部勤務後、平成7年度より、北海道、仙台、広島等の自治体を実施した演劇による人材育成事業に着手し、演劇プロデューサーを務める。

幼少の頃より、古典芸能に親しみ、6歳より日本舞踊、9歳より長唄と三味線を始め、花柳葉二郎、杵屋勝芳寿両氏に師事。現在、杵勝派八代目家元杵屋勝三郎氏に師事。

地域における文化芸術振興事業を数多く手がけ、文化ボランティアや文化事業の企画立案や評価等、広範な活動に参画。平成9年度文化庁在外研修員として英米の地域劇場にて研修。平成14年から9年間に渡り、鳥取県文化振興財団文化芸術デザイナーに就任し、片山善博前鳥取県知事(現・慶応義塾大学教授)の文化政策を推進する。

平成21年度から平成25年度まで滋賀県文化振興事業団芸術監督兼理事を務める。平成24年度からは、(独)日本芸術文化振興会プログラムオフィサー(演劇分野)に就任し、日本版アーツカウンシルの試行に関わり、平成28年度からの本格稼働の取組を行っている。現在、平成17年度から(公社)全国公立文化施設協会アドバイザー、平成22年度から出雲市芸術文化振興アドバイザー、平成27年度からは、文化庁文化審議会第13期～15期文化政策部会委員、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた障害者の芸術文化振興に関する懇談会委員、平成28年度からは、(公財)札幌市芸術文化財団札幌文化芸術交流センター企画専門委員会委員、北九州市顧問兼アーツディレクターに就任し現在に至る。

平成21年度から平成25年度まで滋賀県文化振興事業団芸術監督兼理事を務める。平成24年度からは、(独)日本芸術文化振興会プログラムオフィサー(演劇分野)に就任し、日本版アーツカウンシルの試行に関わり、平成28年度からの本格稼働の取組を行っている。現在、平成17年度から(公社)全国公立文化施設協会アドバイザー、平成22年度から出雲市芸術文化振興アドバイザー、平成27年度からは、文化庁文化審議会第13期～15期文化政策部会委員、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた障害者の芸術文化振興に関する懇談会委員、平成28年度からは、(公財)札幌市芸術文化財団札幌文化芸術交流センター企画専門委員会委員、北九州市顧問兼アーツディレクターに就任し現在に至る。

平成21年度から平成25年度まで滋賀県文化振興事業団芸術監督兼理事を務める。平成24年度からは、(独)日本芸術文化振興会プログラムオフィサー(演劇分野)に就任し、日本版アーツカウンシルの試行に関わり、平成28年度からの本格稼働の取組を行っている。現在、平成17年度から(公社)全国公立文化施設協会アドバイザー、平成22年度から出雲市芸術文化振興アドバイザー、平成27年度からは、文化庁文化審議会第13期～15期文化政策部会委員、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた障害者の芸術文化振興に関する懇談会委員、平成28年度からは、(公財)札幌市芸術文化財団札幌文化芸術交流センター企画専門委員会委員、北九州市顧問兼アーツディレクターに就任し現在に至る。

平成21年度から平成25年度まで滋賀県文化振興事業団芸術監督兼理事を務める。平成24年度からは、(独)日本芸術文化振興会プログラムオフィサー(演劇分野)に就任し、日本版アーツカウンシルの試行に関わり、平成28年度からの本格稼働の取組を行っている。現在、平成17年度から(公社)全国公立文化施設協会アドバイザー、平成22年度から出雲市芸術文化振興アドバイザー、平成27年度からは、文化庁文化審議会第13期～15期文化政策部会委員、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた障害者の芸術文化振興に関する懇談会委員、平成28年度からは、(公財)札幌市芸術文化財団札幌文化芸術交流センター企画専門委員会委員、北九州市顧問兼アーツディレクターに就任し現在に至る。

平成21年度から平成25年度まで滋賀県文化振興事業団芸術監督兼理事を務める。平成24年度からは、(独)日本芸術文化振興会プログラムオフィサー(演劇分野)に就任し、日本版アーツカウンシルの試行に関わり、平成28年度からの本格稼働の取組を行っている。現在、平成17年度から(公社)全国公立文化施設協会アドバイザー、平成22年度から出雲市芸術文化振興アドバイザー、平成27年度からは、文化庁文化審議会第13期～15期文化政策部会委員、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた障害者の芸術文化振興に関する懇談会委員、平成28年度からは、(公財)札幌市芸術文化財団札幌文化芸術交流センター企画専門委員会委員、北九州市顧問兼アーツディレクターに就任し現在に至る。

平成21年度から平成25年度まで滋賀県文化振興事業団芸術監督兼理事を務める。平成24年度からは、(独)日本芸術文化振興会プログラムオフィサー(演劇分野)に就任し、日本版アーツカウンシルの試行に関わり、平成28年度からの本格稼働の取組を行っている。現在、平成17年度から(公社)全国公立文化施設協会アドバイザー、平成22年度から出雲市芸術文化振興アドバイザー、平成27年度からは、文化庁文化審議会第13期～15期文化政策部会委員、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた障害者の芸術文化振興に関する懇談会委員、平成28年度からは、(公財)札幌市芸術文化財団札幌文化芸術交流センター企画専門委員会委員、北九州市顧問兼アーツディレクターに就任し現在に至る。

平成21年度から平成25年度まで滋賀県文化振興事業団芸術監督兼理事を務める。平成24年度からは、(独)日本芸術文化振興会プログラムオフィサー(演劇分野)に就任し、日本版アーツカウンシルの試行に関わり、平成28年度からの本格稼働の取組を行っている。現在、平成17年度から(公社)全国公立文化施設協会アドバイザー、平成22年度から出雲市芸術文化振興アドバイザー、平成27年度からは、文化庁文化審議会第13期～15期文化政策部会委員、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた障害者の芸術文化振興に関する懇談会委員、平成28年度からは、(公財)札幌市芸術文化財団札幌文化芸術交流センター企画専門委員会委員、北九州市顧問兼アーツディレクターに就任し現在に至る。

**藤原 旅人** (ふじわら たびひと)

さいたまトリエンナーレ2016 サポーターコーディネーター



1984年三重県生まれ。

現在は九州大学大学院芸術工学府博士後期課程在籍。

日本文化政策学会会員。文化経済学会(日本)会員。九州大学芸術文化環境学会事務局長。

文化政策学、アートマネジメント、芸術学を専攻。2008年からプロジェクト型アートに魅了され、アートボランティアを遍歴しながら文化人類学的参与調査を展開。

こうした体験知に立脚しアートプロジェクトにおけるボランティアの自尊感情形成を通じた成長譚に着目しボランティア人類学を創出中。

博士研究では、実際のアートプロジェクトや芸術祭を通じたアドボカシー人材のマネジメントに関する調査研究を通し、わが国黎明期のアートボランティアの成立と展開を跡づけている。

さいたまトリエンナーレ 2016 サポーターコーディネーター。

